

【八月の言葉（平成二十九年）】

あやま

過ちは人間を決めない、

過ちのあとが人間を決める。

生きていれば必ず過ちを犯すものです。言っではいけないことを言ったり、やっではいけないことをやったり。問題はそのあとです。その過ちをどう受けとめるかです。居直ったり、ふてくされたり、他人のせいにしたりして事実から眼をそむけてはならないのです。現実を引き受けたところにしか真実はありません。

過ちを通して学ぶこと、気づくこと、目覚めることは多いものです。「また一つしくじった。しくじるたびに目が開いて、世の中少し広くなる」という榎本栄一さんの詩があります。過ちを通して人間は成長するのです。大きくなるのです。

一つの過ちにより人生が大きく変わることもあります。出世コースから外れることもあります。しかし世間の評価とか、社会的地位の高いことが良い人生ではありません。

どういのちを輝かせて生きるか。どう悔いのない人生を生きるか。過ちは人間を決めない。過ちのあとが人間を決めるのです。